

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 1
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

平成29年 **3**月の**優しさ**通信



i P S 治験 2018年度に パーキンソン病

京大 備蓄細胞活用 治療費用安く

- ・京都大学 i P S 細胞研究所は、様々な細胞に育つ i P S 細胞で難病のパーキンソン病を治療する医師主導の臨床試験（治験）を2018年度に始めると明らかにしました。健康な人から予め作った i P S 細胞を患者に移植。
- ・治療にかかる費用と期間が10分の1になる見通し。
- ・治療期間は6週間、費用は数百万円に。
- ・パーキンソン病は、主に50歳以上で発症し、国内に約16万人の患者がいます。(2017年2月4日 日本経済新聞記事から抜粋)



足踏みで進む車いす 関西大 リハビリへの利用目指す

- ・関西大学システム理工学部の開発したのは、足で動かす車いす。
- ・足腰の衰えを防ぐだけでなく、介助者の負担軽減にもつながります。
- ・座ったまま足踏みすると、その力をタイヤに伝えます。踏み込む強さは3段階で調節。
- ・重量は31kgと通常の子車いすの2倍程度、折り畳みは可能。価格はオープン価格。(2017年2月8日 日本経済新聞記事から抜粋)



介護ロボ特需 現場とズレ 補助金先行 持ち腐れも

- ・人手不足が深刻な介護現場の負担を減らすため、国は2013年度から介護ロボットの開発支援を始めました。介護施設などが購入する際、約90万円を上限に全額を補助。今年度末までに約5500箇所の施設がこの制度を利用。
- ・2015年度の介護ロボットの国内の市場規模は11億円弱。その約5倍の補助金を国が投じています。
- ・2012年に厚生労働省がまとめた報告書では、介護施設の12%が「人の手によるぬくもりあるサービスを理念としており、介護ロボット導入は反対」と答えました。
- ・「導入したいが、現場で利用できるような有用な介護ロボットがない」との回答も14%。
- ・日本は2035年に介護スタッフが68万人不足するという推計もあります。(2017年2月12日 日本経済新聞記事から抜粋)

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 2
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



今月の福祉用具－移動関連用具

その1 車いす7 車いすの種類 リクライニング式車いす

- ・座位（座っている状態）から臥位（あおむけになる状態）に姿勢を容易に変えることができる車いす。
- ・自走用にも介助用車いすにもあり、バックレスト（背もたれ）を望む角度に傾斜させることができます。
- ・フルリクライニング式では、ほぼ水平までバックレストを傾斜させることができます。
- ・アームレスト（ひじ掛け）は、ほとんどのものが上下に移動したり、取り外したりすることができ、ベッドから車いすに移乗するときには、身体を横にすらすら水平移乗が可能になって、介助者の負担を軽減します。
- ・車いす座位姿勢からバックレストを傾けると身体が足側に滑りやすくなり、正しい座位姿勢が取りにくくなります。
- ・シート（座面）を傾斜（ティルト）させると身体のずれを防ぐことができます。
- ・事務用や家庭用のいすは3～5度座面がの後方が下がっていますが、バックレストを傾斜させたときは、それ以上に角度をつけないと座位姿勢は安定しません。
- ・要介護4や5の利用者には、ティルト機能付きの車いすを選択すると介助者の介助負担の軽減になります。
- ・リクライニング式車いすはバックレストの高いものが多く、介助者が利用者の座位姿勢を簡単に変えられないものが増えてきています。

（参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキストより）

